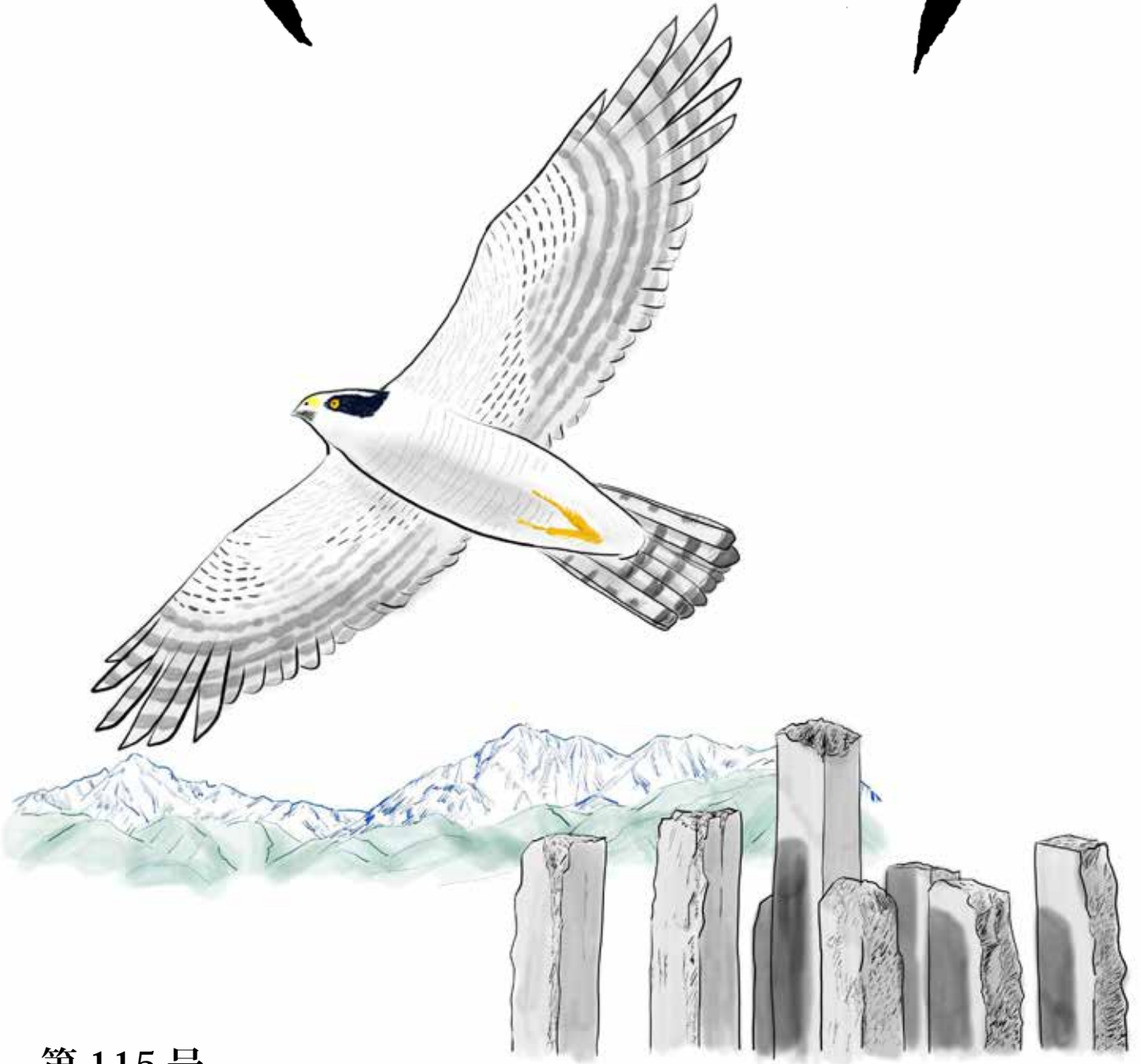


しんせう



第 115 号

2023 年 1 月
日本野鳥の会三重
<http://miebird.org/>



セッカに夢中

伊勢市 中西章

セッカは、春から秋にかけて、河口や河原の草原で「ヒッヒ」「チャッチャツ」と囀ることから、皆さんもよくご存じの身近な鳥といってもいいでしょう。長年気にはしていたのですが、今年の春からこの鳥をじっくり観察してみようと宮川河口（大湊海岸）の草原に2022年4月から9月までの半年間、2～3日おきで通いはじめました。

3月にはヒバリが空中で囀りをはじめますが、4月になるとセッカも負けまいと空中で囀ります。囀りはオスが縄張りを主張することと、巣を作った際にメスを呼び込むためらしいですが、オスは半径150～200mの縄張りの空間をひっきりなしに飛んでいます。この浜では約1kmの海岸沿いを3羽のオスが縄張りを持ってけん制しあっています。繁殖期のセッカのオスは、囀りするのと、口回りが黒いので、メスと区別ができます。



空中で囀るオス

観察していると、オスは空中での囀りだけでなく、クモの糸らしい材料を運び、縄張り内に巣をあちこちに作っているようでした。ちょうど5月15日にNHKの「ダーウィンが来た」でセッカの巣作りが紹介され、オスが器用にクモの糸で草を裁縫する様子が放送されました。この糸はクモの卵(卵囊)をつつむ、べたつかない特殊な糸で、これでないとうまくススキなどの草を編み込めないようです。そして編み込んだ外装巣にメスを呼び寄せ、メスが巣を気にしていると巣材を運び、内装した巣を完成させるということで、実際、オスの作った外装巣にメスが巣材運びする営巣ポイントを数か所確認しました。

目次

セッカに夢中	2
表紙の言葉	2
秋の三池岳	5
大杉谷の鳥類	6
2022年のシロチドリ繁殖	7
鳥類目録の作成作業すすむ。	7
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化	
—連載第30回 タマシギ—	8
ガンカモ調査始まる	13
タカの渡り 2022年	14
鈴鹿市長がスタジアム建設中止を要請。	15
野鳥記録	16
理事会報告	20
事務局だより	20
探鳥会予告 (2023年1月～3月)	21
探鳥会報告 (2022年8月～2022年10月)	21
編集後記	24

表紙の言葉

オオタカ

四日市市 三曾田明

今回は、「北勢中央公園を舞うオオタカ」です。北勢中央公園では過去、度々オオタカを観察しています。ただ、ここ数年は観察頻度が激減して、ほとんどお目にかかれていません。

それで、脳内にあるシーンを描いてみました。絵ですから、自由自在!! 水のプラザ中央のモニュメントは北勢中央公園のシンボル。その向こうに鈴鹿山脈が見えて…、その上をオオタカが舞う。実際にはあり得ない構図ですが、脳内ではこんな感じのイメージがあるのです。

その後、巣を完成させたメスはおそらく卵を産んで、抱卵期間の2週間後、餌運びするのを見て、ヒナが生まれたのだと確信しました。メスはほとんど声を出さず、「フィフィ」という小さな声を出すのみで、草の上には出てこないので、巣についている個体以外は、メスを見つけることは困難です。もちろん草むらの中での営巣なので、場所は特定できたとしても、刺激せぬよう遠くから観察しました。そしてもうすぐ巣立つかなと思っていた矢先、メスの餌運びがなくなったので、おそらく外敵に巣が襲われたでしょう。巣立ちまでの繁殖は難しいようで、なかなか幼鳥の姿を確認できません。

ところが、7月に入って放棄したと思っていた営巣ポイントから、幼鳥が顔を出しました。しばらくは草むらの中で親から餌をもらっているようで、簡単に姿は見ることはできませんが、1週間もすると近距離を飛ぶようになり、オスから追いかける姿も確認できました。この時期に3か所で10羽ほどの幼鳥を確認しました。4月からこの間、オスは子育てにはいっさい参加せず、ずっと縄張り内を空中で囀りながら、いまだにあちこちで巣を作っているようです。



口周り黒いオス



糸を運ぶオス



巣材を運ぶメス

セッカは一夫多妻制だといわれていますが、メスがたくさんいるわけではなく、繁殖に失敗しても、次の準備のために、オスはずっと巣作りをして、子孫を残す方法をとっているのでしょう。オスが頑張っただけで巣作りしている割には、繁殖率はあまりよくないように思いました。

8月に入ると3羽いたオスはいつの間にか1羽になり、広大な縄張りを相変わらず飛び回っていますが、肝心の餌を持ったメスは見かけなくなり、当地での繁殖活動としては一段落したかもしれません。幼鳥のオスは、群れで行動するようで、当地でも3羽から5羽くらいの群れで、草の上に出ると「チッチッ」というアオジの地鳴きのような声から見つけることができます。おそらく幼鳥たちが鳴き交したりして、コミュニケーションをとっているのだと思います。幼鳥のメスは、さすがに1か月で繁殖個体となるメスは当地にはいないようで、目立つ行動をすると成鳥のオスに追いかけるので、草むらの中にいることが多いようです。

そして9月にはオスの囀りも聞こえない、ひっそりとした草原に戻りました。成鳥のオスは縄張りを主張することがなくなり、換羽に入ることもあって、ひっそりと草むらの中で過ごしているようです。幼鳥のオスは成鳥のオスに追いかけることもなくなったので、頻りに群れで姿を見せるようになり、成鳥よりも幼鳥のほうが見つけやすくなりました。幼鳥の行動範囲も広がり、対岸の中州の草むらまで移動したりしています。ただ幼鳥もだんだん警戒心が強くなり、顔を出してはすぐ草むらに隠れるので、簡単に近寄れなくなりました。



餌を運ぶメス



幼鳥が顔を出す



幼鳥同士の遊び

このように約半年間にわたるセッカの観察で、ごく身近で見られる普通種の鳥でも、様々な発見があり、あらためてその不思議な生態に感心しました。いった

ん9月末までの報告とさせていただきますが、今後当地で越冬するか見届けたいと思っています。

秋の三池岳



志摩市 濱屋 勝則

2022年10月29日(土) 晴れ

7:47 八風キャンプ場奥の駐車場をスタート
7:52 三池岳登山口
10:15 中峠、10:35 北仙香山、10:55 八風峠
11:07 三池岳山頂(974m)
13:57 三池岳登山口
13:28 八風キャンプ場奥の駐車場

前回は初夏に登りたくさんの野鳥にも出会えましたが、この度は風の強かった影響も有り飛び交う姿なども見られず、茂みの中から何種類かの声を聞くのみでした。しかし、季節は秋と言う事で樹木の葉は鮮やかに色付き紅葉が進んできれいに見て取れました。



鳴き声や姿を見られた野鳥 : コゲラ、カケス、エナガ、ハシブトガラス、ヤマガラ、メジロ



大杉谷の鳥類について紹介したいと思います。私は現在、八ヶ岳の南麓（長野県の諏訪地域）に住んでおり、山梨県の大学で非常勤講師として働いています。甲信地方に20年ほど住んでいますが、実家は大杉谷にあり、いまも5月や12月には帰省しています。

小学校3年生から鳥の観察を始めました。児童数の少ない学校で、理解のある担任の先生に恵まれたこともあり、鳥の観察に多くの時間を使うことができました。2008年には、1991年から2006までに大杉谷で観察した鳥類をまとめました（Strix Vol.26）。調査の範囲は、宮川ダムから北東（下流方向）に直線で6.3kmと、上流の大和谷、水呑峠までの車道沿いです。



カワアイサ（2021年12月31日）

ライフワークであるイワツバメやホシガラスの調査のほか、亜高山帯の鳥類群集や種子散布、小鳥類の渡り調査などをおこなっていますが、自分の住んでいる場所や出身地にどのような鳥類が生息しているのかということにも関心があります。そのため、帰省したときには鳥の記録を取るようになっています。2008年の報文では、15年間に大杉谷で確認した34科82種の鳥類を報告しました。繁殖期および非繁殖期を合わせた優占種は、ヒヨドリ、ヤマガラ、メジロ、ウグイス、カケス、エナガ、カワラヒワなどでした。調査地は常緑広葉樹の多い植生で、車道や人家周辺などの開けた場所によく観察される鳥が記録できる傾向にありました。

確認された82種のほかに、今回の調査範囲外ではサンショウクイ、マミジロ、トラツグミ、メボソムシクイ、エゾムシクイ、サンコウチョウを

観察しています。また、これら以外に「宮川村史（1994年）」にはコノハズク、アオバズク、ヨタカ、ブッポウソウ、ビンズイ、コマドリ、キバシリの記録があり、知人はオオコノハズクを確認しています。さらに、新聞には宮川ダムで保護されたオオミズナギドリと思われるミズナギドリ類の写真が掲載されていたこともありました。

15年間の調査で、個体数に変化のあった種はイソヒヨドリ、コシアカツバメ、イワツバメ、スズメ、ドバト、ソウシチョウなどでした。印象に残っているのは、1992年にオオワシ、オジロワシ、ヤツガシラを観察したこと、1998年にオオアカゲラとイワツバメの繁殖を確認したこと、ウメの花を食べるアオバトを見たこと、ヤマセミやカワセミの巣を見つけたことなどです。

2007年以降は新たに、カワアイサ、ハイタカ、ハクセキレイなどが記録されました。ハクセキレイは2010年1月と2011年10月の2回のみで、その後は観察されていません。カワアイサは2011年ごろから見られるようになり、近年、個体数が増えているように思います。



イソヒヨドリ（2012年12月31日）

他には、2006年12月にイワツバメの越冬が確認されたり、キバシリが標高200m付近に普通に生息していたり、スズメの個体群が消滅したということがありました。イソヒヨドリは繁殖をするようになり、定着しています。大杉谷では、市街地で普通に見られるムクドリはこれまで1度も観察されていません。亜種リュウキュウサンショウクイも注意しているのですが、見つかっていません。今後も、大杉谷の鳥類を記録していきたいと考えています。



2022年のシロチドリ繁殖

四日市市 岡崎 かおり
津市 平井 正志

四日市では吉崎海岸、鈴鹿川派川、および楠漁港南の海岸の3か所。それぞれを5月～6月末に1、2週間ごとに訪ねました。

吉崎海岸では、毎月一度海岸清掃が行われています。また、大駐車場もあるため釣り人も多くやってきます。5月に3ペアが営巣活動に入ったようでしたが、人の活動でかく乱されて放棄したようで6月には姿を消しました。

鈴鹿川派川では、2ペアを確認、順調に営巣活動を開始したように思われました。しかし、地元小学校の遠足に利用されたためか、一度は砂浜で

見られませんでした。ディスプレイのような行動が見られたので、おそらく2度目の産卵が行われたのではないかと考えます。卵や雛の姿は確認できませんでしたが、6月16日に擬傷行動を観察できました。

楠漁港南では、2ペアを観察しました。こちらも営巣し抱卵しているのではと思わせる行動をしていました。ただ、巣があると思われた場所が養魚場に近く、近所の人や犬の足跡も多くありました。残念ながら、5月末には姿を消しました。

シロチドリの繁殖は、コロナ感染症の拡大に伴うアウトドア利用の増加により、困難になっていると思われます。営巣エリアの立ち入り禁止期間を設ける等の対策をとらない限り、雛の誕生はかなり難しいのではと考えます。

津市では豊津浦、町屋浦、および安濃川河口砂州を随時調べました。町屋浦では5月20日に孵化直後と思われるヒナ2羽を確認しました。

なお、上記以外に津市阿漕浦で5月14日及び21日に清掃ボランティア活動中に卵を発見との情報があったが、直接出向いて観察することができませんでした。



シロチドリの偽傷行動

鳥類目録の作成作業すすむ。

当会では今、三重県産鳥類の目録を作成中である。

県内の目録関係ではこれまで、1979年に樋口行雄が三重県の鳥相をまとめ、三重県立博物館研究報告に掲載している。また1980年には橋本太郎が自作の標本等に基づく「三重県鳥類の分布と生態」を自費で刊行している。また、当会会員の久住勝司が手書きの目録「三重県の野鳥観察記録」を作った。これは刊行されず、親しい会員等に閲覧されてきた。

これらの情報をもとに鳥類全体の目録を作成することにし、2021年11月から作業を始め、この度、目録の一部、シギ・チドリ編をPDFで刊行することにした。当会のホームページ上で近々閲覧できるようにする予定である。

(目録作成委員 平井正志)



シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化 —連載第 30 回 タマシギ—

津市 今井 光昌

タマシギは主に本州中部以南から南西諸島までの各地に分布し、留鳥または漂鳥として繁殖しています。留鳥とは一年中一定の地域で生息し季節によって移動しない鳥のことですが、三重県でタマシギを見ることが出来るのは4月下旬頃から9月中旬頃迄です。田植えの始まる4月、水田に水が入ると、どこからか移動してきます。タマシギの好む生息環境は、湿田や短い草の生えた水溜まりのある休耕田ですが、近年では休耕田の減少と水田の乾田化が進み、タマシギの生息に適した環境が著しく失われてきています。

タマシギは名前に「シギ」がついていますがシギ科の鳥ではありません。チドリ目タマシギ科に分類されています。嘴と足はシギのように長くて、頸が短く胴体が太くずんぐりした体形をしています。鳥類はシギ・チドリ科の鳥も含めて大部分の鳥が♀よ

りも♂の方が大きく派手な羽模様をしています。タマシギは♂より♀の方が大きく鮮やかで、繁殖に関わる雌雄の役割分担も逆転しています。求愛ディスプレイも通常♀が行います。

タマシギは夜行性の鳥で、繁殖期に暗くなった夕刻の水田地帯で♀が10数回も続けて「コオー、コオー」と大きな声で鳴いているのをよく聞きました。♀が♂を呼んでいるのです。個体数が減った近年はそうした鳴き声を殆ど聞かなくなりました。タマシギは通常1巣4卵で、つがいになって3・4日後に卵を産み始めます。♀親は産卵を終えると抱卵から育雛までを♂親に任せて離れて行きます。1日1個の卵を産むとすれば、タマシギ夫婦が一緒にいるのはつがいになってから4卵を産み終える迄の1週間程度と推量されます。

タマシギ ♂親1羽と雛4羽の3家族



図1 A家族 2009.08.21

図2 B家族 2009.08.21

図3 C家族 2009.08.21

図1-3は同じ場所で同日、同時刻に観察した3家族です。水が少し残る休耕田に3家族が集合していました。子育て中の♂親3羽と雛12羽です。3家族が一つのグループで行動しているのではなく、家族単位で別々に行動していました。稲刈り時期になり水田の水が落とされ、3家族それぞれの育雛場所

であった休耕田も干上がり、水気のある休耕田に育雛中の家族が移動したのです。広くない1枚の休耕田に集まった2009年8月21日の雛連れの3家族、当時は毎年、松阪市五主地区だけで3-5組の繁殖を観察できていました。近年は1組の親子の観察でさえ難しくなっています。

タマシギ 成鳥雌雄



図4 雌雄（左♀、右♂） 2011.07.02



図5 雌雄（前♀、後♂） 2016.05.10

タマシギは目の周りとその後方に白い勾玉模様と言われる特徴的な模様があります。♀はその勾玉部分が白色で、♂はその部分が黄褐色味を帯びています。頭中央線と背のV字線は雌雄とも黄褐色で、胸から側胸にかけて白線があり（図4-6）、

その白線は背の黄褐色の線と繋がっています（図8）。♀は上面が緑褐色で下面は喉から頸が赤褐色で胸が黒いです。♂は頭部から上面の褐色味が強く喉から胸が灰褐色、雨覆に淡黄褐色の水玉斑、風切には茶褐色の水玉斑と黒色斑があります。雌雄とも腹部は白いです。



図6 雌雄（下♀、上♂） 2016.07.17

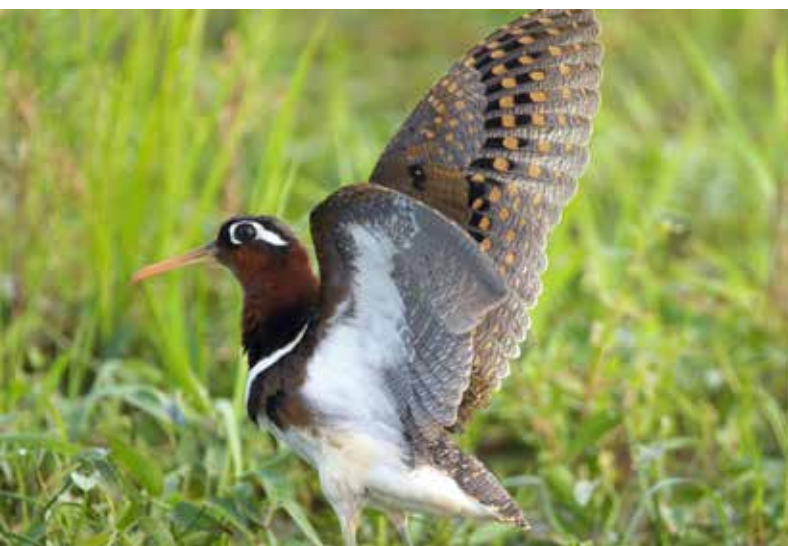


図7 ♀成鳥 2007.08.19

♀は翼を閉じていると水玉斑は分からないのですが、翼を広げると黄褐色の水玉斑が翼上面にたく



図8 ♂成鳥 2007.07.14

さんあることが分かります（図7）。この水玉斑と目の周囲の勾玉斑がタマシギの大きな特徴です。

タマシギの巣(産卵途上の♀)

営巣場所が草地だと少し窪ませただけの巣ですが、図9の場所は水田のあぜ道です。巣がこのような場所だと水没する危険があるので、水位が上がるにつれ周囲の枯れ草で巣を盛り上げていきます。その高さは30cmにも及ぶこともあります。なお、図9は産卵途上の♀です。4卵を産み終わると次の繁殖相手になる♂を探しに行きます。抱卵は♂の役割です。



図9 産卵途上の♀ 2009.05.09

タマシギ 雛



図10 雛 2008.07.07



図11 雛 2008.07.21

図10の雛を観察した7月7日には雛4羽の内の1羽は立ち上がることも出来ず何度も転んでは起き上がろうともがいていましたが、翌日にはなんと雛4羽が親の後について歩いていました。前日立ち上がれなかった雛は生まれて間もなかったのです。雛の成長はとても早く、図11はそれから2週間後の雛です。幼綿羽がまだ残りますが幼羽への換羽が進んできています。タマシギは口移しで雛に餌を与えます(図12)。個体差もありますが、孵化から1週間もすれば餌をおねだりする雛ばかりでなく自力で餌を採るようになります。生まれたての雛は幼綿羽に覆われていますが、幼綿羽は1か月ほどで幼羽に全換羽し、雛は親離れしていきます。雛の頭中央線と過眼線は黒いです。



図12 ♂親に口移しで餌をもらう雛 2009.08.22

タマシギ 幼鳥



図 13 幼鳥 2011.08.16



図 14 幼鳥 2013.09.17

幼鳥(図 13-14)は♂成鳥と羽色・羽模様がよく似ています。図 15 の親子は体の大きさで左が成鳥で右が幼鳥と見ることが出来ますが、同程度の大きさになると親子の判別が難しくなります。成鳥の嘴は繁殖期には肉色味を帯び、幼鳥の嘴は灰色味を帯びます。幼鳥は胸から側胸に続く黒色帯と白色帯が成鳥より不明瞭で、胸と腹部の境界がぼやけています。



図 15 成鳥(左)と幼鳥(右) 2015.08.15

タマシギ 第1回冬羽



図 16 ♀第1回冬羽 2008.01.22



図 17 ♂第1回冬羽 2008.01.22

幼鳥は全体に黄色味が強い羽色ですが、♀第1回冬羽は幼鳥とは異なる羽衣になり♀の成鳥夏羽に似た羽衣になります。♂第1回冬羽は♂成鳥夏羽と

似ます。雌雄とも第1回冬羽では全体に彩度が低く暗い感じの羽色になります(図 16-17)。

図 18 は左が♂第 1 回冬羽で右が♀第 1 回冬羽です。第 1 回冬羽は雌雄の羽色が似て見えますが、♂の方が♀より勾玉斑の黄色味が強いです。♀第 1 回冬羽は頭部や胸に赤味が殆どなく、勾玉斑は成鳥のように真っ白でなく、やや黄色味があります。また、第 1 回冬羽は雌雄とも幼鳥や成鳥夏羽より体色が地味で、胸の黒色帯と白色帯は幼鳥よりは明瞭ですが成鳥夏羽よりは不明瞭です。



図 18 第 1 回冬羽 左♂・右♀ 2008.01.22

タマシギ 成鳥夏羽



図 19 ♀成鳥夏羽 2016.07.22



図 20 ♀成鳥夏羽 2009.04.28

♀成鳥夏羽は翼を閉じていると雨覆が黒褐色の細かい横斑で水玉斑は見えませんが（図 19-20）、翼を広げると初列雨覆に水玉斑があります。♂成鳥夏羽は翼を閉じていても雨覆に黄色の水玉斑が見えます（図 21）。図 19 の夏羽個体は体をブルッと震わせた時にエリマキシギ夏羽を思い起こすような襟巻が出ました。夏羽に完全換羽した状態かもしれませんが。タマシギは水田地帯に水が入る 4 月下旬頃の田植え時期に現れますが、8 月下旬から 9 月中旬頃、稲刈りの為に水田地帯の水が抜かれると、水田地帯が乾燥して生息環境が失われるため移動していきます。当地域のタマシギの繁殖最盛期は 7 月から 8 月です。



図 21 ♂成鳥夏羽 2009.04.28

タマシギ ♂成鳥冬羽

図 22 は♂成鳥夏羽から冬羽に換羽中です。体の小さな幼鳥 2 羽連れであったことから間違いなく成鳥であると言えます。摩耗した旧羽（夏羽）が残り、黄色味の強い夏羽も一部残っています。図 23 の個体は新しい冬羽に全換羽しています。擦れた羽がなく各羽が新鮮です。幼鳥や♂夏羽では勾玉斑の

黄色味がもっと強いことから♂成鳥冬羽と判断できます。多くのシギ・チドリと同様に夏羽より冬羽は地味な羽色になり体全体の色合いが鈍くなります。9 月になると成鳥♀と出会うことが無くなります。♀は子育てをしないので移動が早いのかも知れません。



図 22 ♂成鳥冬羽に換羽中 2013.09.17



図 23 ♂成鳥冬羽 2009.09.01

最後に

♂より♀の羽色の方が鮮やかで綺麗なシギ・チドリの仲間と言えばヒレアシシギ科のハイイロヒレアシシギやアカエリヒレアシシギなどありますが、両種とも旅鳥です。タマシギは留鳥または漂鳥です。タマシギは繁殖生態が♂が抱卵し子育ても行う雌雄逆転している鳥で、とても興味深い鳥ですが、三重県のタマシギの生息数は著しく減少していま

す。警戒心の強い臆病な鳥なので出会った時は怖がらせずに注意深く観察するよう心がけています。また、繁殖生態が雌雄逆転しているシギ・チドリの仲間にはレンカク科のレンカクもいますが、レンカクは旅鳥で三重県での繁殖はありませんし、雌雄ほぼ同色です。三重県で繁殖するシギ・チドリの仲間では雌雄逆転の鳥はタマシギだけです。

ガンカモ調査始まる

2023 年のガンカモ調査は全国で 1 月に行われる予定である。この調査は 1970 年から開始され、今回で 54 回目となる。三重県は第 1 回から参加している。これまでの調査結果は環境省で集計され、同省のホームページで閲覧できる。当会は三重県からの委託事業として参加しており、会員が手分けして県内のため池、河川、海上など約 200 ケ所を調査予定である。それ以外に県職員などが調査する調査ヶ所があり、合計約 300 ケ所が調査される。結果の概要は会報次号 116 号でお伝えできるであろう。

なお、イギリスでは第二次大戦直後の 1947 年に国立歴史博物館が始めており、今は WWT が中心的な役割を果たしているという。

(研究部長 前澤昭彦)
(代表 平井正志)

タカの渡り 2022年



四日市市 笹間 俊秋

タカの渡りの観察は毎年、庭田山、みつえ高原、高見山、伊勢やすらぎ公園にて会員有志と当会探鳥会にて行われています。今年も各地から観察記録がよせられましたので、ここに報告します。

例年、北勢地方の庭田山では内陸を渡るタカを見ることができ、サシバとハチクマ両方が同じような数を見られる場所となっています。今年は8月下旬から飛び始めていたようですが、安定せずピークは9月24日となりました。しかし例年よりかなり少ない観察結果となってしまいました。

2022年 庭田山タカの渡り観察

	サシバ	ハチクマ	ノスリ	トビ	ツミ	その他	不明タカ	合計
9月7日	7			5			5	17
9月8日								観察無
9月9日						ミサゴ1		1
9月10日								0
9月11日	1	1	1				1	4
9月12日								雨
9月13日	2	10	1	1			4	18
9月14日	3	1	1	4		チョウゲンボウ1	4	14
9月15日				2				2
9月16日	5	3	2	3	1	クマタカ1	4	19
9月17日	2	1				チョウゲンボウ1		4
9月18日								観察無
9月19日								台風
9月20日								観察無
9月21日	23	37	1	4				65
9月22日								濃霧
9月23日								雨
9月24日	19	35		4		チョウゲンボウ1	26	85
9月25日	7	3	1	1				12
9月26日	18	9	7	2			6	42
9月27日	2	4	2	1	1		2	12
9月28日	2	5	4	3	1		1	16
9月29日	10	4	9	1	1		2	27
9月30日	6	3	12	3			7	31
10月1日								観察無
10月2日	7		7	3			2	19
10月3日			1				1	2



渡り途中のサシバ

一方、中勢、南勢地方のみつえ高原、高見山、やすらぎ公園は太平洋沿岸の伊良湖岬から渡ってくるタカを見ることができます。

みつえ高原は例年よりも探鳥会開催が1週間早かったためか、サシバよりもハチクマの観察が多かったようです。やすらぎ公園は1回目のピークは9月27日、2回目は10月2日がピークとなり、たくさんのサシバが観察できました。高見山は10月1日の探鳥会で64羽のサシバが観察され、10日にはサシバ84羽と多くのタカ柱が観察されました。

今年の日本列島は内陸方面で風が吹かない天候が続いたため、長野県白樺峠ではかなり渡りの数が少なかったようです。太平洋側は一定の風は吹いていたようで、ピーク時には例年並みの渡りを観察できたようです。三重県内を見てもタカの渡りは風の影響を受けやすいと実感した観察結果になりました。

2022年9月25日（日）みつえ高原探鳥会

	サシバ	ハチクマ	トビ	不明タカ	合計
9月25日	40	28	1	8	77

伊勢やすらぎ公園 タカの渡り(2022年)

日付	天候	時間	サシバ	ハチクマ	ノスリ	ツミ	オオタカ	合計
9/24(土)	晴	10:00~11:00	0	0	0			0
9/25(日)	晴	08:00~09:30	0	0	0			0
9/26(月)	曇	08:30~10:50	3	0	1	1		5
9/27(火)	曇	08:00~10:45	64					64
9/28(水)	小雨のち曇	09:00~11:45	35	1				36
9/29(木)	小雨のち曇	08:00~11:45	2			1		3
9/30(金)	曇~晴	08:00~11:00	2					2
10/1(土)	晴	07:30~10:30	28					26
10/2(日)	晴	07:30~10:30	102				タカsp 1	103
10/3(月)	天候不良	観察せず	—					—
10/4(火)	曇	08:00~11:00	5		1		1	7
10/8(土)	曇	08:00~11:00	1					1
合計			240	1	2	2	1	246

※10/1~2 探鳥会

高見 鷹の渡り

場所は高見トンネル手前と高見峠（10/15のみ）です。

日付	天候	時間	サシバ	ハチクマ	ツミ	チゴハヤ	クマタカ	合計
9/25（日）	晴	8:50-11:45	6		2			8
9/30（金）	曇り	7:45-11:20	13	3	1		2	19
10/ 1(土)	晴	9:30-11:30	63				1	64
10/10(火)	曇、時々雨	7:30-11:10	82			1	1	84
10/15(土)	曇り時々晴	8:50-12:00	1					

鈴鹿市長がスタジアム建設中止を要請

2022年11月29日付の中日新聞によると11月28日、鈴鹿市長は県営鈴鹿青少年の森にポイントゲッターズの運営会社「アンリミテッド」が建設を予定しているスタジアムについて、建設を中止するよう要請した。この森は市民のいこいの場であり、探鳥会も行われているが、県有地であり、スタジアム建設のため、無償で貸し出すこととなっていた。

当スタジアムについては、当会有志を含む、鈴鹿市民から建設反対運動が進められていた。JFL所属のサッカーチーム、ポイントゲッターズは不正試合が発覚し、問題とされていた。また、建設資金の調達もメドが立たなかったという。

（津市 平井正志）



野鳥記録 (2022年8月1日から11月15日までに報告があったもの)

鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所	雄/雌/などの 区別	記録報告者 氏名	脚注
ナベコウ	1	2021/12/28	御浜町志原		清水 勝海	1
ヤツガシラ	1	2022/03/23	御浜町市木		清水 勝海	2
コシャクシギ	1	2022/04/18	御浜町市木		清水 勝海	3
ツバメチドリ	1	2022/05/03	御浜町市木		清水 勝海	4
コシアカツバメ	1	2022/05/05	御浜町阿田和		清水 勝海	5
ゴイサギ	1	2022/06/01	御浜町志原	幼鳥	清水 勝海	6
クロハラアジサシ	4	2022/06/18	木曾岬町 鍋田川溜池		笹間 俊秋	7
アカエリヒレアシシギ	1	2022/08/18	松阪市		西村 四郎	8
サンショウクイ	30	2022/08/28	四日市市 垂坂公園		今西 純一	9
サンコウチョウ	1	2022/08/28	四日市市 垂坂公園		今西 純一	10
コウノトリ	3	2022/08/30	伊賀市	雄1羽、雌2羽	南 一郎	11
コサメビタキ	1	2022/09/04	四日市市 垂坂公園		今西 純一	12
メジロ	2	2022/09/04	四日市市 垂坂公園		今西 純一	13
ジュウイチ	1	2022/09/05	津市 青山高原	幼鳥	前田 聡	14
サンコウチョウ	1	2022/09/10	四日市市 垂坂公園		今西 純一	15
ツメナガセキレイ	1	2022/09/20	松阪市 金剛川河口水田	冬羽	西村 四郎	16
オオアカゲラ	1	2022/09/25	松阪市飯高町 高見峠		中村 真理子	17
ノビタキ	1	2022/09/25	菰野町 三重県民の森		入船 眞一	18
アリスイ	1	2022/09/27	松阪市 松名瀬		中村 真理子	19
オオアジサシ	2	2022/10/04	松阪市 五主海岸		中村 真理子	20
ヒメアマツバメ	20	2022/10/08	御浜町市木		笹間 俊秋	21
カッコウ	1	2022/10/09	四日市市 海蔵川		入船 眞一	22
ソウシチョウ	6	2022/10/10	菰野町 三重県民の森		入船 眞一	23
キビタキ	1	2022/10/11	紀宝町成川		清水 勝海	24
ジョウビタキ	2	2022/10/15	菰野町 三重県民の森	雄1羽、雌1羽	今西 純一	25
クサシギ	1	2022/10/15	菰野町 三滝川		谷口 幸生	26
アオアシシギ	1	2022/10/15	津市		平井 正志	27
ジョウビタキ	1	2022/10/19	松阪市	雄	中村 真理子	28
ノゴマ	2	2022/10/19	伊勢市	雄	西村 四郎	29
クマタカ	3	2022/10/20	松阪市		中村 真理子	30
アトリ	21	2022/10/22	松阪市嬉野町		中村 真理子	31
ジョウビタキ	1	2022/10/22	熊野市	雄	沢本 浩志	32
スズメ	1	2022/10/22	御浜町市木	白化個体	沢本 浩志	33
コシアカツバメ	400	2022/10/23	津市安濃町		平井 正志	34
アトリ	12	2022/10/23	菰野町 三重県民の森		入船 眞一	35
アトリ	2	2022/10/28	津市安濃町		平井 正志	36
ヒドリガモ	1	2022/11/02	鈴鹿市	雌	今西 純一	37
ミヤコドリ	110	2022/11/03	松阪市 松阪港		中村 洋子	38
アカゲラ	1	2022/11/04	伊勢市		中村 真理子	39
タゲリ	1	2022/11/14	御浜町志原		沢本 浩志	40
ホオアカ	2	2022/11/14	御浜町志原		沢本 浩志	41

脚注

1. 上空通過、2020年2月3日及び2020年2月9日にも上空飛行を観察している。
4. 2日滞在した。
5. 巣材か何かくわえていて、近くに巣があった。
6. ここで幼鳥を見るのは久しぶり。
7. 毎年、コアジサシに混じり飛来する。4羽が杭に止まって休んでいた。
8. 大林茂生氏の代理投稿 8月17日庭にうずくまっているのを発見。翼から血が出ていた。水や餌は与えたが、22日落鳥。
9. 数え切れず、30とした。恐らくそれ以上いた。ものすごい数で固まって、餌をとりながら移動していた。
10. シジュウカラ等の混群の中にいた。
11. 京都府綾部市で去年生まれた雄1羽と、兵庫県豊岡市で今年生まれた2羽の雌が一緒に行動していた。
12. 今期初認。
16. 台風一過の20日、水田地帯を巡っているといた。
18. 三重県民の森でノビタキを見たのは初めて。
21. 河口で鳴きながら20羽の群れが飛んでいった。次の週の探鳥会でも観察。
25. 初認。
25. 同一個体か不明だが、10日1日にも観察している。
26. この内陸で見るのは初めて
28. 毎年10月2日～5日前後に来るジョウビタキ。今年は少し早め。
30. 森林公園上空を親子3羽で飛んでいた。
33. 10月12日初認以降滞在中。10月22日現認。
34. 渡りの群れが団地を通過した。
35. 三重県民の森でアトリを観察したのは初めて。
37. 今年もメジロなヒドリガモが帰ってきた。2017年度の冬から6年連続。昨年同様、すでに雄とペアになっているよう。(雄が同じか識別できず)
38. ミヤコドリが110羽以上。
39. 海辺の横の雑木林にいた。
40. 田んぼのあぜ道に1羽でいた。釣り糸か何かぶらさげて飛んでいた。仲間とはぐれた可能性があり。
41. 毎年、志原には複数個体が飛来する。



コウノトリ：南 一朗



カッコウ：入船 眞一



コシャクシギ：清水 勝海



ジュウイチ：前田 聡



サンコウチョウ：今西 純一



ナベコウ：清水 勝海



ツメナガセキレイ：西村 四郎



ヒメアマツバメ：笹間 俊秋



クサシギ：谷口 幸生



コサメビタキ：今西 純一



ノゴマ：西村 四郎



アカゲラ：中村 真理子



アトリ：中村 真理子



スズメ（白化個体：右）：沢本 浩志

理事会報告



2022年11月6日 津市安濃中公民館第2研修室
日本野鳥の会三重理事会 参加者 10名、欠席2名

1. ナベヅルについて
昨年、ナベヅルにとって安全な場所で採餌・ねぐらがとれ、48羽が越冬できた。
今年飛来した場合、積極的に公開はしないが、報道機関の問い合わせには対応する
採餌場所では看板を立てることも検討する。
2. ガンカモ調査
当会の担当箇所を増やす予定。調査員の高齢化の問題がある。調査員を増やす。
12月中旬まで担当者を確定する。
3. その他の調査
カワウ調査：事務局（変更なし）
タカ渡り調査 まとめ担当：笹間
ミヤコドリカウント 担当：近藤
4. レッドデータブック
県からの委託経費を受けた。2025年3月まで調査し、完成させる。
5. しろちどり 115号 11月15日締め切り
6. 来年度の探鳥会
新規の担当者を入れる。
探鳥会では屋外ではマスクは必須ではない
乗り合わせ時はマスク着用する。
7. 来年度の総会
対面開催する方向で検討する。
同時開催 野鳥講座 について幾人かの候補者が上がり、議論した。
理事改選 理事を増やす
8. シギ・チドリの講習会を行い、新規調査員を育てる。
9. 日本野鳥の会三重の体制 代表の交代を検討する。
10. 木曾岬干拓地の現状 現状が近藤より報告された。
11. 三重県版鳥類目録について シギ・チドリ編がほぼ完成、今後、写真をあつめる。
12. インボイス制度について 会計より、説明があり、当会は課税業者となる。

事務局だより

活動の記録(2022年8月～10月)

- 8 / 29 三重県環境影響評価委員会小委員会 傍聴
(仮称)平木阿波ウインドファーム事業及び
(仮称)平木阿波第二ウインドファーム事業に係る環境影響評価準備書について)
- 9 / 10 会報誌「しろちどり第114号」発行・発送作業
- 10 / 14 国土交通省三重河川事務所宮川出張所へ宮川看板案を提出
- 10 / 18 (仮称)平木阿波ウインドファーム事業及び
(仮称)平木阿波第二ウインドファーム事業に係る環境影響評価準備書に
関する聴取会(代表)
- 10 / 21 「月刊なごや」へ掲載協力(事務局)



探鳥会予告 (2023年1月～3月)

- 1月22日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
開催地/愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
集合/ 9:00 愛知県 弥富野鳥園
- 1月22日(日) 上野森林公園探鳥会 小雨決行!
開催地/伊賀市下友生 三重県上野森林公園
集合/ 9:30 上野森林公園 第2コテージ駐車場
(正門のあるビジターセンター駐車場ではありません)
- 1月24日(火) 木曾三川探鳥会
開催地/桑名市・海津市・愛西市 揖斐川・長良川・木曾川
集合/ 9:00 桑名市 多度大社前駐車場付近
- 1月28日(土) 肱江川探鳥会
開催地/桑名市多度町猪飼 肱江川周辺
集合/ 10:00 肱江川 猪飼橋 南詰め
- 1月29日(日) 大淀海岸探鳥会 小雨決行!
開催地/多気郡明和町 大淀海岸周辺
集合/ 9:30 大淀小学校前 業平の松公園
- 2月4日(土) 明神・神戸の里山林道探鳥会 小雨決行!
開催地/津市久居明神町 みえ里山自然ふれあいの会 前の林道
集合/ 9:30 みえ里山自然ふれあいの会駐車場
- 2月5日(日) 鈴鹿青少年の森探鳥会 小雨決行!
開催地/鈴鹿市 県営鈴鹿青少年の森
集合/ 10:00 管理事務所前 (プレハブの建物)
備考/参加予約必要 鈴鹿市環境政策課 (059-382-1100)
- 2月12日(日) 五十鈴川周辺探鳥会
開催地/伊勢市浦田町 五十鈴公園
集合/ 10:00 浦田町バス停
- 2月18日(土) 三滝川かんさつ会 小雨決行!
開催地/三重郡菟野町 三滝川河川敷
集合/ 9:30 大羽根グランド駐車場
- 2月23日(木・祝) 高松海岸探鳥会
開催地/川越町 高松海岸
集合/ 10:00 川越緑地公園 公園駐車場
- 2月26日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
内容は、1月22日と同じです。
- 3月4日(土) 身近な冬鳥を観察しよう(海辺の鳥)
開催地/三重県総合博物館及び津市高洲町 安濃川河口右岸
集合/ 9:30 三重県総合博物館2階 エントランスホール
備考/参加予約必要 三重県総合博物館 059-228-2283
- 3月5日(日) 石垣池探鳥会
開催地/鈴鹿市石垣3丁目 石垣池
集合/ 10:00 石垣池駐車場横
- 3月7日(火) 海蔵川で鳥見ing!
(バードウォッチング) その6 小雨決行!
開催地/四日市市西坂部町 海蔵川沿い
集合/ 9:45 海蔵川代官橋 北詰
- 3月19日(日) 阪内川探鳥会 小雨決行!
開催地/松阪市 外五曲町 親水公園ちびっこ広場付近
集合/ 9:30 鈴の森公園 (図書館前の噴水)
- 3月19日(日) 宮リバー公園探鳥会 初心者歓迎
開催地/度会町棚橋 宮リバー 度会パーク
集合/ 9:00 バザールわたらい前 駐車場
- 3月26日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
内容は、1月22日と同じです。



探鳥会報告 (2022年8月～2022年10月)

●揖斐川ツバメのねぐら入り探鳥会

2022年8月21日(土) 17:00～19:00

桑名市多度町 揖斐川

笹間俊秋 近藤義孝 参加者36名(会員3名)

カルガモ、キジバト、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、セッカ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ 計13種

夕方開催で曇っていたため、暑さはそれほど感じませんでした。最近ではツバメのねぐらが変わったようで、ツバメが飛んでくれるか心配でしたが、午後6時30分を過ぎると300羽以上が下流へ向けて飛んでいるのを確認できました。参加者も集団で飛ぶツバメの姿を見て喜んでいました。

●木曾岬干拓地探鳥会

2022年8月28日(日) 9:00～11:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者3名(会員3名)

カルガモ(1)、キジバト(6)、カワウ(11)、アマサギ(20)、アオサギ(10)、ダイサギ(10)、チュウサギ(100)、コサギ(1)、クサシギ(2)、ミサゴ(2)、トビ(7)、カワセミ(2)、チョウゲンボウ(1)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(10)、ヒバリ(5)、ショウドウツバメ(20)、ツバメ(250)、メジロ(1)、セッカ(10)、ムクドリ(2)、スズメ(110)、ハクセキレイ(3)、カワラヒワ(5)、ホオジロ(1)、ドバト(10) 計26種

木曾岬干拓地ではチュウヒが繁殖しなかったため、チュウヒを見ることができませんでした。堤防が工事中で長い距離を歩かなければならないため、探鳥会としては実施できていません。来月からは探鳥会として再開できる予定です。

●五主探鳥会

2022年9月10日(土) 13:30～15:30

松阪市 五主海岸

吉崎幸一 中村真理子 参加者24名(会員18名)

カルガモ、ハシビロガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、セイタカシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ウミネコ、オオアジサシ、ミサゴ、トビ、チョウゲンボウ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、セッカ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、ドバト 計29種

午前中の雨も上がり、真夏のような日差しの中での探鳥会になりました。河口部ではシギ・チドリの姿は、寂しい限りですが見られませんでした。それでも、海岸沿いではキアシシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギが少ないながら見られました。沖の並んで立っている竹には、ウミネコに混じってオオアジサシが止まっていた。今期の初認と思われます。上空ではチョウゲンボウがホバリングしたり堤防に止まったりする姿が見られました。また、橙色の残るアマサギなどのサギ類が見られた他、2羽のセイタカシギとアオアシシギの姿や、澄んだ声で鳴きながら飛び回るところも見られました。



ゴイサギ

●海蔵川で鳥見ing!(バードウォッチング)その3

2022年9月13日(火) 9:45～11:30

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者10名(会員4名)

カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ 計19種

5月以来久しぶりの、今年度第3回目の海蔵川でのバードウォッチングです。朝から良い天気には恵まれましたが、9月中旬とはいえ残暑が厳しい日になりました。スタートしてしばらく鳥の姿が見られず、少し離れた所からハシボソガラスの音が聞こえるだけの、やや不安な始まりとなりました。右岸側に移るとツバメに混じりコシアカツバメも飛んでいました。耳を澄ますとモズの高鳴き声が、田んぼには嘴が黄色に戻ったダイサギが餌を探して佇んでいました。最後、右岸から離れる前に左岸の竹の枝上にカワセミが姿を見せてくれました。まだ巣立ったばかりの若いオスとメスでした。刈り終えた田んぼを見ながら、いよいよ秋本番が間近に来ている、そう思いながらの解散となりました。

●庭田山タカ渡り探鳥会

2022年9月23日(金・祝)

笹間俊秋

雨で中止となりました。

●木曾岬干拓地探鳥会

2022年9月25日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

笹間俊秋 参加者5名(会員4名)

マガモ(1)、カルガモ(60)、コガモ(1)、キジバト(5)、カワウ(50)、アオサギ(21)、ダイサギ(100)、バン(1)、ツルシギ(1)、アオアシシギ(1)、クサシギ(1)、イソシギ(2)、ミサゴ(6)、ハチクマ(1)、トビ(5)、カワセミ(3)、モズ(6)、ハシボソガラス(200)、ハシブトガラス(5)、シジュウカラ(2)、ヒバリ(5)、ツバメ(6)、ヒヨドリ(2)、メジロ(2)、ムクドリ(5)、イソヒヨドリ(2)、スズメ(180)、ハクセキレイ(6)、セグロセキレイ(2)、ホオジロ(3)、ドバト(80) 計31種

秋の気配が漂う中の探鳥会でしたが、やはり少々暑かったです。この日は水路にツルシギ、アオアシシギと一緒にいました。また、カルガモの中にマガモ、コガモ、バンが混じっていました。

●みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会

2022年9月25日(日) 9:00～12:00
奈良県宇陀郡御杖村菅野 みつえ高原牧場
田中豊成 南 一朗 参加者5名(会員3名)

キジバト、ハチクマ(28)、トビ、サシバ(40)、オオアカゲラ、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、イカル 計17種(タカの不明種8羽 遠くて同定出来なかった)

サシバのタカ渡りとしては時期が若干早かった様です。サシバより、渡りのハチクマが数多く見られ、渡りの違いを実感しました。ツバメ類では、ツバメ、イワツバメ、コシアカツバメの3種も数多く見られました。

●高見タカ渡り探鳥会

2022年10月1日(土) 8:30～11:30
松阪市飯高町木樨 高見峠手前
西村四郎 中村真理子 参加者12名(会員11名)
サシバ、クマタカ、コゲラ、オオアカゲラ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、キセキレイ 計12種

雨上がり2日目なので期待しました。期待通り(3桁)にはいかなかったですが、まあボツボツ飛んでくれました。遠かったですが、尾根筋に50羽のサシバのタカ柱が観察できました。圧巻でした。クマタカも時々現れて、貴重な自然環境を再認識しました。このような場所に風力発電など どんでもないことです。

●やすらぎ公園タカ渡り探鳥会

2022年10月1日(土) 7:30～10:30
伊勢市 やすらぎ公園
中西章 参加者15名(会員10名)

キジバト、トビ、ツミ、サシバ(28)、コゲラ、サンショウクイ、モズ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、イソヒヨドリ、エゾビタキ、スズメ、キセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計20種

晴天に恵まれ、絶好の観察日和となったが、肝心のタカは遠く、肉眼で見られたのは上空を通過したサシバ1羽のみであった。それでも、遠いが12羽のタカ柱など、タカ渡りの雰囲気は味わった。やすらぎ公園では過去の経験則から、晴天日は遠くの南コースを通過することが多く、今回もその通りとなった。小鳥類はエゾビタキ、モズ、ヤマガラなどが、適度に現れては、近くの木に止まり、楽しむことができた。

●やすらぎ公園タカ渡り探鳥会

2022年10月2日(日) 7:30～10:30
伊勢市 やすらぎ公園
中西章 参加者14名(会員12名)

キジバト、ハイタカ属SP(1)、サシバ(102)、コゲラ、アオゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、エナガ、ヒヨドリ、メジロ、イソヒヨドリ、エゾビタキ、キビタキ、キセキレイ 計18種

本年は、予備日も兼ねて2日間実施してみたが、両日とも良好な天気にも恵まれた。ただ昨日に続き、晴天なので南コースの遠い渡りが予想され、まさにその通りとなった。遠いものの36羽、25羽、11羽、8羽のまとまった数の渡りがあった。特に36羽の渡りはタカ柱があり、壮観な渡りであった。最終的にはサシバ102羽を数え、探鳥会では久々の3桁の数字となった。

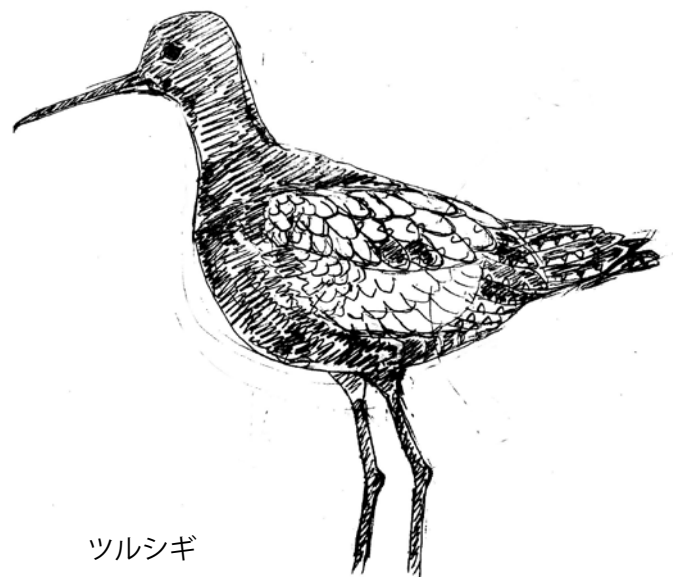
●海蔵川で鳥見ing!(バードウォッチング)その4

2022年10月8日(土)
川瀬裕之
中止になりました。

●市木川河口及び水田探鳥会

2022年10月16日(日) 9:00～12:00
南牟婁郡御浜町市木 市木川河口
笹間俊秋 参加者19名(会員8名)

カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ヒメアマツバメ、トビ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、メジロ、コムドリ、ノビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計26種



ツルシギ

当日は晴れましたが雲が多く、あまり気温が上
がらず快適に観察することができました。橋の上
を通過する際に周辺をヒメアマツバメが飛び回
り、じっくり観察することができました。みなさん
初めて見られた方も多く、喜ばれていました。
田んぼには二番穂があってスズメがたくさんい
て、畦の草の先端にはノビタキの姿もありました。

●木曾岬干拓地探鳥会

2022年10月23日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者8名(会員8名)

オカヨシガモ(120)、カルガモ(12)、コガモ(120)、
キジバト(1)、カワウ(300)、アオサギ(8)、ダイサ
ギ(12)、コサギ(3)、オオバン(7)、ゲリ(4)、イソシ
ギ(2)、ミサゴ(7)、トビ(17)、ハイタカ(1)、オオ
タカ(2)、ノスリ(4)、チョウゲンボウ(1)、ハヤブ
サ(1)、モズ(4)、ハシボソガラス(100)、ハシブト
ガラス(30)、シジュウカラ(4)、ヒバリ(4)、ショウ
ドウツバメ(2)、ツバメ(2)、ヒヨドリ(30)、ウグイ
ス(1)、メジロ(1)、ムクドリ(1)、ジョウビタキ(1)、
ノビタキ(1)、スズメ(50)、ハクセキレイ(3)、セグ
ロセキレイ(1)、カワラヒワ(10)、ホオジロ(3)、ド
バト(2) 計37種

多種の猛禽類を観察できました。残念ながら木曾岬
干拓地を代表するチュウビは観察できませんでした。

●香良洲海岸探鳥会

2022年10月29日(土) 10:00～12:00

津市香良洲町 香良洲海岸

今井光昌 今井鈴子 参加者21名(会員20名)

ヒドリガモ、マガモ、ホシハジロ、スズガモ、カン
ムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダ
イサギ、オオバン、シロチドリ、ミヤコドリ、イソ
シギ、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、ミサ
ゴ、トビ、ノスリ、コゲラ、チョウゲンボウ、ハシ
ボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、
ウグイス、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、
カワラヒワ、ホオジロ、カワラバト 計32種

天候に恵まれ過ぎました。反射光で水面がギラ
ギラして泳ぐ鳥たちがとても見づらい状態でした。
水面は見づらくてもカモメやカモの群れが飛
び、楽しませてくれました。半月近く姿を見なかつ
たミヤコドリも100羽程の群れで突然現れ数回
旋回し去っていきました。ミヤコドリが探鳥会を
歓迎しにやってきた、嬉しいサプライズでした。

編集後記

メスのカモの見分けは難しいと敬遠されがち
ですが、ベテランの人は見分けています。では、
その人たちはどこを見て見分けているのでしょ
うね。オスのカモならば、嘴が黄色で頭が緑光
沢→マガモのように、言葉で識別のポイントを
言えます。では、マガモのメスは、地味な色で
…と言葉に詰まります。

犬と猫の顔の写真を見せたら、誰もが識別の
ポイントを意識することなく瞬時に犬猫を判別
できます。自分の子と他人の子の写真を見せたら、
これも瞬時に判別できると思います。では、
その違いを他人に「説明して」と言われたら…
言葉に詰まると思います。

こういった画像認識能力は学習によって得ら
れるもので、とてもよくできています。最近は
AIでも犬・猫と判別はできます。でも、カモの
メスの判別は怪しいかな。先述のベテランの人
が、カモのメスを見分けているのはこういった
学習によるもののようです。

最近、「カモの仲間の見分け方」という資料を
作りました。メスのカモも、なんとなくxxxガモ
というのではなく、違いをイラストで表して識
別のポイントを文字で記しました。これなら、た
くさんの学習しなくてもメスの識別ができるよ
うになるカモ。この号が届く頃には当会のホーム
ページの「刊行物」から見られるようになってい
ると思いますので、ぜひ見てやってください。
この場を借りてお知らせさせていただきました。
(A.M.)

しろちどり 115号

2023年1月1日発行

題字：濱田稔

表紙絵：三曾田明

カット：平井正志

編集：平井正志・笹間俊秋・三曾田明

発行所：日本野鳥の会三重

平井正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印刷：株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市